

国指定・道指定文化財概要一覧(釧路管内)

番号	管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP	備考
NM1	胆振・日高・上川・十勝・釧路・石狩	白老町・平取町・新ひだか町・旭川市・浦河町・帯広市・釧路市・札幌市・千歳市・むかわ町・日高町・新冠町・様似町・弟子屈町・白糠町	国	重要無形民俗文化財	アイヌ古式舞踊	昭和59年1月21日	保護団体 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会	<ul style="list-style-type: none"> アイヌ古式舞踊は、アイヌの人々によって伝承されている芸能で、祭祀の祝宴、家庭の行事での祝宴等さまざまな行事に際して踊られ、アイヌ独自の信仰に根差している歌舞で、その様式には古い形態をとどめているものが数多くあります。 特に、信仰と芸能と生活が密接に結びついているところに特色があり、芸能史的な価値が高いものです。 舞踊の種類は、祭のための酒を醸す時に歌われる「杵搗き歌」や「さるこし歌」に合わせて踊る作業歌舞、祭祀的性格の強い「剣の舞」、「弓の舞」のような儀式舞踊、「鶴の舞」、「ハッタの舞」のような模擬舞踊、「棒踊り」、「盆とり踊り」、「馬追い踊り」などの娯楽舞踊、さらには、「男色の舞」のような即興性を加味した舞踊があります。 このような多種多様な曲目もそれぞれのコタンによって伝承曲目や舞い方が異なりますが、いずれも歌(ウポボ)を中心とし、踊りは輪舞(リムセ)を基本として構成されています。 信仰あるいは生活の中から生まれた舞踏性を今でも色濃く伝えており、舞踊の発生を考える上でも重要なものと考えられます。 昭和59年1月21日重要無形民俗文化財として指定された「アイヌ古式舞踊」は、保護団体アイヌ古式舞踊連合保存会、構成団体8保存会であったが、平成6年12月21日付けで構成団体に9保存会が追加されました。 		北海道アイヌ古式舞踊連合保存会 電話011-221-0462		アイヌ民族博物館 〒059-09 白老町若草町2丁目3-4 電話0144-82-3914 阿寒湖アイヌコタン 〒085-04 釧路市阿寒町宇阿寒湖畔 電話0154-67-2727 川村アイヌ記念館 〒070 旭川市北門町11 電話0166-51-2461	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1217308330496&SiteID=000000000000&FP=seclis&t&RK=1217319792092	
NS6	釧路	釧路市	国	史跡	モシリヤ砦跡	昭和10年12月24日	釧路市城山1-141-1	<ul style="list-style-type: none"> 旧釧路川に面して半島状に伸びる標高18メートルの丘陵を利用して作られ、その形から「おそなえ山」として親しまれています。 サルシナイ(声の生えている沢)チャシ、ポロ(春採湖岸のウライケチャシコツにくらべて大きいという意味)チャシとも呼ばれてきました。モシリヤチャシの名前は、この一帯の地名モシリヤ(川の中島の島の対岸の丘)によります。 築造者のわかる数少ないチャシの一つであり、ウライケチャシを築いたトミカラアイノによるといわれ、宝暦年間(1751～1764)に実在した人物です。その後、一族のタサニセやメンカクシも利用し、1世紀近くにとわって機能したとみられています。 	くしろバス仏舎利塔通バス停前	釧路市埋蔵文化財センター 0154-43-0739		史跡内の立ち入りは連絡してください。	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/brows&ActionCode=content&ContentID=1217307559405&SiteID=000000000000	
NS7	釧路	釧路市	国	史跡	春採台地竪穴群	昭和10年12月24日	釧路市春採台	<ul style="list-style-type: none"> かつては、春採湖のまわりの台地には217軒の竪穴住居跡が確認されていました。春採台地竪穴群付近では149軒を数えましたが、現在指定地内に59軒存在するにとどまり、この内、地表面から産みを確認できるのは31軒だけです。 これまでの調査によって、擦文時代後半の時期(12・13世紀)の集落跡であることが確認されています。また湖側の崖面から縄文時代早期の土器も採集されています。 	くしろバス常舞中学校バス停前	釧路市埋蔵文化財センター 0154-43-0739		自由に見学できます。	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=121730759405&SiteID=000000000000	
NS8	釧路	釧路市	国	史跡	鶴ヶ位チャランケ砦跡	昭和10年12月24日	釧路市鶴ヶ位3-35-2	<ul style="list-style-type: none"> 春採湖の北岸から南にむかって半島状に突き出た台地の頂部(標高約12メートル)につくられています。南及び東西側は急斜面で北側は比較のおだやかな斜面となっていて、南側にはかつて船着場があったといわれています。 ジグザグになった2条の壕(幅3メートル・深さ1メートル)がめぐらされ、チャシ内の広さは東西30メートル・南北15メートルです。昔、この場所はトモシリ(湖の中島と呼ばれる離れ島で、トコロカムイ(湖の神様)の遊び場であったと伝えられています。 チャランケというのは、アイヌ語で話し合いという意味ですが、これは後世の人がつけた名称で、本来の呼び名はわかっていません。 	くしろバス春採公園バス停前	釧路市埋蔵文化財センター 0154-43-0739		自由に見学できます。	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/brows&ActionCode=content&ContentID=121730759405&SiteID=000000000000	
NT10	釧路	釧路市	国	天然記念物	春採湖のヒブナ生息地	昭和12年12月21日	釧路市春採湖全域	<ul style="list-style-type: none"> 春採湖のヒブナは大型で、しかも色彩がヒゴイに似てあざやかなため、全国各地に生息するヒブナに比べて光沢のあるその美しさは格別とされています。 これまで起源については不明でいろいろな説がだされてきました。フナの突然変異説、フナとワキンの交雑説、ワキンの野生化説などが提出されて市民の間で大きな話題になりました。しかし、昭和60～62年(1985～1987)の染色体調査によって、大部分が春採湖のギンフナが突然変異で赤変した日本固有のヒブナであると判明しました。 ヒブナの大きな特徴のひとつとして、生まれてから1年以上たって赤変することがあげられます。生息地である春採湖とその周辺は、多くの動植物が生育・生息し、市民の憩いの場として親しまれています。 	くしろバス春採公園バス停前	釧路市立博物館 0154-41-5809		自由に見学できます。	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/brows&ActionCode=content&ContentID=121730800697&SiteID=000000000000&FP=seclis&t&RK=1217319792092	釧路市教育委員会1988『天然記念物春採湖ヒブナ生息地保存対策調査報告書』
NS17	釧路	釧路市	国	史跡	東釧路貝塚	昭和45年7月22日 昭和51年2月24日(追加指定)	釧路市貝塚1-11-1ほか	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代早期から近世にかけての遺跡で、道内に現存する縄文前期(6000～5000年前)の貝塚では最も規模が大きいものです。前期の貝塚は、東西120メートル・南北90メートルの範囲に大小合わせて11のブロックにわかれて分布しています。貝層の厚さは1メートル前後で、アサリが最も多く70%を占め、カキ・オオノガイなどといっしょに暖海生のアカガイ・シオフキなども含まれています。 この他、ニシンをはじめとする魚類やアホウドリ、ミズナギドリなどの鳥類、国内の貝塚では最も量が多いといわれるトド、アシカなどもあり、鯨類ではクジラ・イルカ類、陸獣類ではエゾシカ、クマ、オオカミ、家犬などの骨が検出されています。 貝層中にはイルカを放射状に配列したり、トドや家犬を埋葬するなど貝塚が宗教的な面で利用されたことがあきらかとなっています。 下層には縄文早期(約7000年前)の小貝塚も存在します。 	くしろバス貝塚1丁目バス停前	釧路市埋蔵文化財センター 0154-43-0739		自由に見学できます。	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/brows&ActionCode=content&ContentID=1217308330496&SiteID=000000000000	

番号	管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP	備考
NS26	釧路	釧路市	国	史跡	北斗遺跡	昭和52年7月14日	釧路市北斗4-1	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の北西10キロメートル、釧路湿原を望む台地に位置しています。遺跡は東西2.5キロメートル、南北0.5キロメートルの範囲に広がりをもち、9地点に分かれて364軒の竪穴住居跡が確認されています。このうちの第5地点から第9地点までが国の指定史跡です。 竪穴住居跡は現在も窪みとなって残されており、多くは方形の竪穴で擦文文化期のものですが、円形や楕円形の形をした縄文・続縄文期のものもあります。 史跡内からは、これまでの調査で旧石器時代の終り頃の石器や擦文文化期の炭化した編み糸、編物、組みひも、織物などの繊維製品、アサ・キビ・オオムギ・小豆などの植物遺体をはじめ貴重な資料が見つかっています。 	阿寒バス北斗坂下バス停から徒歩5分	史跡北斗遺跡展示館 0154-56-2677	自由に見学できます。		http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/browsar?ActionCode=content&ContentID=1217307875969&SiteID=00000000000	
NTT1	釧路	釧路市	国	特別天然記念物	阿寒湖のマリモ	昭和27年3月29日	釧路市阿寒町字阿寒	<ul style="list-style-type: none"> マリモはシオグサ科に属する緑藻類の一種で、東アジアでは阿寒湖のほか釧路湿原湖沼群、むつ小川原湖沼群(青森県)、富士五湖(山梨県)などに分布しています。 マリモはふつう岩や礫の上に付着したり、付着物から遊離して湖底を漂いながら生活していますが、波動や湖底の状態など特殊な環境条件が備わると球状に発達します。 阿寒湖では湖の2カ所の水深3メートル以浅の湖底に球状のマリモが生育しており、その直径は最大で34センチメートルに達します。このようなマリモは世界でも阿寒湖でしか見られません。 近年、生育環境の悪化によってマリモの数は減少を続けており、この貴重な生物を保存しようと、様々な調査・研究や保護活動が進められています。 阿寒湖のマリモは、その形が珍奇で生育分布が限られるため、学術的に極めて貴重であるとして、大正10年(1921)に天然記念物、昭和27年(1952)に特別天然記念物に指定されました。多くの謎を秘めたマリモの研究は近年になって急速に進み、生物地理学や系統進化学など植物学の様々な分野から注目されています。 	阿寒湖温泉からチュウルイ島マリモ展示観察センターまで遊覧船で1時間25分、高速船で50分(往復)	釧路市教育委員会阿寒生涯学習課 0154-66-2222	マリモ展示観察センター 4月29日～11月30日 6:00～17:30 一般400円 小学生240円	阿寒町教育委員会1998「特別天然記念物『阿寒湖のマリモ』第3次総合調査報告書概要版」	http://marimo-web.org/	
DY37	釧路	釧路市	道	有形文化財	円空作仏像薬師像	昭和52年3月11日	厳島神社 釧路市米町1-3-18	<ul style="list-style-type: none"> 円空(1632～1695)は、美濃国(現在の岐阜県)に生まれ、北海道から京都・奈良まで各地を放浪し、木質をいかした素朴な彫師の仏像およそ10万體をつくったといわれ、全国で2000體が確認されています。 厳島神社に伝わる円空仏は薬師仏の座像で、像高は台座を含めて43センチメートル、台座の背面に「くすり乃たげくごんげん」の銘があります。この像は内浦湾に面した礼文華峰にあるケボロキとよばれる洞窟にあった5體のうちの1體です。 5體は蝦夷地を代表する山岳にあって、はるばる霊山を訪ねがたいのでこの洞窟に背銘像をそそえて運持したと思われる。 洞窟に残る仏像を釧路へ移したのは松田伝十郎で、背銘にある山々へおきたいのことから寛政11年(1799)に有珠善光寺、苫小牧樟前山神社そして釧路へと3體の仏像を移動させました。こうして実に製作されてから131年ぶりに目的の地に安置されることになりました。 	くしろバス米町公園バス停前	釧路市厳島神社 0154-41-4485	非公開です。	http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/icity/browsar?ActionCode=content&ContentID=1217308480018&SiteID=00000000000		
NT26	釧路	釧路町、鶴居村、標茶町	国	天然記念物	釧路湿原	昭和42年7月6日	釧路町鶴居村標茶町	<ul style="list-style-type: none"> 釧路湿原は、釧路市・釧路町・標茶町・鶴居村の1市2町1村にまたがる我が国最大の湿原です。 湿原の中央部と宮島岬及びキラコタン岬の先端部は、国指定の天然記念物「釧路湿原」に指定されています。(5012ヘクタール) 釧路湿原は、高層湿原、中間湿原、低層湿原で構成され、それぞれに特徴的な植生が見られます。 特別天然記念物タンチョウをはじめとする各種鳥類のほか、キタサンショウウオやイジマルリポリシヤンマなどの希少動物も生息する豊かな自然生態系が維持されており学術的にも貴重なものです。 釧路湿原は、昭和55年(1980)にわが国初の「ラムサール条約登録湿地」として指定され、昭和62年(1987)には道内6番目、全国では28番目の国立公園に指定されました。 	JR釧路湿原駅前阿寒バス釧路展望台バス停前	釧路町教育委員会 0154-62-2111 鶴居村教育委員会 0154-64-2050 標茶町教育委員会 015-485-2111	指定区域の立ち入りは文化庁、北海道教育委員会の許可が必要です。			
NB29	釧路	厚岸町	国	重要文化財	正行寺本堂	平成4年1月21日	厚岸町梅香町1丁目	<ul style="list-style-type: none"> 浄土真宗大谷派では、北海道の開拓にあわせて布教活動を行い、明治12年(1879)に厚岸説教所を開設しました。当初鴻月町の借家をあてていましたが、同14年に現在地に本堂を新築して移り、同16年に正行寺と名乗ることを許されました。 現在の本堂は、新潟県西頸城郡西海村大字平牛(現在の糸魚川市)の浄土真宗満長寺本堂(寛政11年(1799)建築)を購入して現在地に移築し、部分的に改造を加えたもので、文書や棟札によると明治42年(1909)に解体し、船で厚岸に輸送し同43年竣工、翌44年3月に移築落慶法要が行われています。 本堂は、正面18.3メートル、側面21メートルで、要所に彫刻を記し、内陣廻りの唐狭間に牡丹の透かし彫りや極彩色を施すなど、北海道の近世寺院としては特に豪華で造りもよく、移築にあたって加えられた改造も北海道の気候風土に合わせていて、興味深いものとなっています。 移築の関係文書もよく残っていて、北海道の開拓に伴う建築文化の普及活動を知る上で貴重な存在であり、建造物としては道東初の重要文化財に指定されました。 	くしろバス本厚岸郵便局前バス停より徒歩3分 JR厚岸駅より約2km	正行寺 0153-52-2443 厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040	正行寺に連絡して下さい。	厚岸町1975『厚岸町史』上巻		
NB46	釧路	厚岸町	国	重要文化財	蝦夷三官寺国泰寺関係資料	平成17年6月9日	国泰寺 厚岸町鴻月町1丁目	<ul style="list-style-type: none"> アツケン(現厚岸町)に建立された国泰寺は、現在の十勝支庁管内から根室支庁管内に至る地域とクナシリ・エトロフ島までを布教範囲とする禅宗(鎌倉五山派)の寺院です。 この寺院が伝承する歴代住職の記録である『日鑑記』(文化元(1804)年～文久3(1863)年)は幕府の蝦夷地政策や異国船来船などに関し触れた資料として著名なものです。 また、持ち場内の各地域に住する武士や商人、出稼ぎ人などが自ら署名し寄進した大般若経(だいはんにゃきょう)600巻(現存469巻)は辺境における仏教に対する意識を知る好資料です。 またアイヌの人々にかかわる資料も少なくなく、本資料の学術的価値は高いものです。 複写本は厚岸町郷土館で展示しています。 	くしろバス国泰寺前バス停より徒歩1分 JR厚岸駅より約3km	国泰寺 0153-52-3064 厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040 厚岸町郷土館 0153-52-3794	非公開です。	厚岸町1975『厚岸町史』上巻		

番号	管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP	備考
NS19	釧路	厚岸町	国	史跡	国泰寺跡	昭和48年10月29日	厚岸町湾月町1丁目ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・国泰寺(臨済宗鎌倉五山派景運山国泰寺)は文化元~2年(1804~1805)、ロシアの南下・異教の侵入・場所請負制度の弊害など北辺の危機が叫ばれるなかで、箱館奉行の願い出により幕府が建立した蝦夷三官寺(有珠の善光寺、様似の等澗院、厚岸の国泰寺)のひとつで、厚岸湾に突出する半島の神明宮(厚岸神社の前身、寛政3年(1791)最上徳内の建立)の旧地を含む10町四方の風除林をその寺有地として創建されました。 ・現存する建物はほとんどが後代の改修を経ているが、境内地はよく江戸時代のたたずまいを伝えており、また蝦夷地における特異な歴史的役割を果たした重要な寺として、裏手のアイカップを含む約13万平方メートルが史跡に指定されています。 ・境内地は、町指定天然記念物の老桜樹をはじめとする桜の名所で、数多くの観光客が訪れています。 ・国泰寺関係資料は、厚岸町郷土館に展示しています。 	<p>くしるバス国泰寺前バス停より徒歩1分 JR厚岸駅より約3km</p>	<p>国泰寺 0153-52-3064 厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040 厚岸町郷土館 0153-52-3794</p>	<p>国泰寺に連絡して下さい。</p>	<p>厚岸町1975『厚岸町史』上巻</p>		
NT19	釧路	厚岸町	国	天然記念物	大黒島海鳥繁殖地	昭和26年6月9日	厚岸町大黒島	<ul style="list-style-type: none"> ・大黒島は、厚岸町床潭沖約4キロメートルに浮かぶ周囲約6.1キロメートル、面積約1.1キロメートルの無人島で、同島のほぼ真北にある小島とともに、厚岸湾口に位置して自然の防波堤を形成しています。 ・「たいこく」という地名は、松浦武四郎の『戊辰日記』によると「島の形が丸くて大黒天の頭のように見えるため」に由来すると言われています。 ・明治中期には、標高102.8メートルの島内最高地点に厚岸灯台(明治23年(1890)11月25日初点灯)が置かれ、豊かな漁業資源を求める漁民も住みはじめ、床潭小学校大黒島分校も開校されました。昭和26年灯台を含む島の南西部約12万平方メートル(全島面積の約11パーセント)が、海鳥の繁殖地として国の天然記念物に、また同39年に道立自然公園として、さらに同41年には全島が特別鳥獣保護地区に指定されました。 ・島には、コンジロウウミツバメ(南限繁殖地)やオオセグロカモメ・ウミネコ・ウミウ・ケイマフリなどが生息し、海鳥の楽園として注目を集めており、ゼニガタアザラシの数少ない繁殖地のひとつともなっています。 	<p>漁船のチャーターが必要で、床潭漁港から約10分</p>	<p>厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040 厚岸町環境政策課林政係 0153-52-3131</p>	<p>入島の場所によっては許可申請が必要になります。</p>	<p>厚岸町1962『厚岸町文化財』</p>		
DY35	釧路	厚岸町	道	有形文化財	太田屯田兵屋	昭和49年2月28日	厚岸町太田2の通り6の3番地	<ul style="list-style-type: none"> ・太田屯田兵屋は、明治23年(1890)に北太平洋の警備と開拓を行うため本州から太田に入植してきた屯田兵440戸が暮らす住宅として、明治22年1月から翌年5月にかけて標茶集治監の囚人によって建てられました。 ・兵屋は17.5坪(58平方メートル)の木造平屋建て、土間・6畳と4畳半の2部屋・居間・台所や押入れ・便所などからなっています。居間には炉が設けられ、屋根に煙出し(排気口)が付いています。 ・官給品であった兵屋は、みだりに改変することができませんでしたが、家族の状況や営農上必要な改変については、願い出によって許可されていました。 ・この兵屋の特徴は、向かい合う建物の構造が道路を挟んで対称になる「裏返し型」といわれる建て方で、一方の兵屋の入口が道路から遠くなる不都合を解消するために考えられました。 ・この兵屋は兵屋番号119番で、明治37年(1904)の屯田兵制度廃止後も住宅として使用されていたものを、昭和46年(1971)に復元し、昭和48年所有者より町に寄贈されました。 ・道内でも当時と同じ場所に兵屋が残っている所は非常に珍しく、屯田兵の生活を知る上で貴重な建造物です。 	<p>くしるバス太田農協前バス停より徒歩20分 JR厚岸駅より約6km</p>	<p>厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040</p>	<p>無料で公開しています。</p>	<p>厚岸町1975『厚岸町史』上巻</p>		
DS13	釧路	厚岸町	道	史跡	厚岸神岩岩跡及び堅穴群	昭和41年7月7日	厚岸町大字別寒辺牛村字神岩30番地	<ul style="list-style-type: none"> ・神岩チャン跡及び堅穴群は、厚岸湖の北岸、別寒辺牛川左岸の丘陵上に位置し、約160ヘクタールの範囲が指定されています。 ・遺跡は、チャン跡と堅穴群・貝塚で構成され、厚岸湖岸の南面しています。 ・チャン跡は、標高50~70メートルの丘陵の先端部に存在し、湖に面した3カ所と別寒辺牛川に西面した1カ所の計4カ所が認められ、周塚と貝塚があります。 ・堅穴住居跡は、今までに763軒が確認されていますが、大きさは5~10メートルで、深さ1~1.5メートルの円形または方形のものが多くみられます。昭和40、41、45年の3回にわたって行われた同遺跡に含まれる下田ノ沢地区の調査では、続縄文・擦文・オホーツク式土器や金属器などが出土し、住居跡や貝塚が検出されました。 ・下田ノ沢遺跡出土の土器等は、厚岸町郷土館で展示しています。 	<p>漁船のチャーターが必要で、</p>	<p>厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040 厚岸町郷土館 0153-52-3794</p>	<p>見学にあたっては事前に連絡願います。</p>	<p>厚岸町教育委員会1972『厚岸町下田ノ沢遺跡』</p>		
DT24	釧路	厚岸町	道	天然記念物	厚岸床潭沼の緋鮎生息地	昭和47年4月1日	厚岸町大字床潭村字床潭	<ul style="list-style-type: none"> ・床潭沼は周囲約2.5キロメートル、面積約10ヘクタールで、深さはほとんどが2メートル前後の浅い泥炭海跡湖沼で、南北に長い十字形をしています。 ・周囲をヨシ、スゲなど多くの湿性植物で覆われた富栄養湖沼で、沼水に含まれる酸素の比率も高く、植物プランクトンで赤系統の色素カロチノイドを含むアオコと呼ばれるランソウ類などが豊富なので、緋色を出現させる緋鮎の生育には最適な沼です。 ・緋鮎はフナとワケシの中間種で、普通のフナのなかから突然変異によって体色の赤いものが出現したといわれていますが、緋色を出現させるのは緋鮎の素質を持っているものだけで、孵化して1年は体色が黒いのですが、1年後に腹部から徐々に変化していきます。 ・昭和40年から緋鮎の生息調査が行われていますが、フナに対する緋鮎の出現率は1パーセント弱と低い割合なので、貴重な魚として保護されています。 	<p>JRバス床潭バス停から徒歩3分 JR厚岸駅から約4km</p>	<p>厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040</p>	<p>一般公開はしていません。</p>			

番号	管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP	備考
NT5	釧路	浜中町	国	天然記念物	霧多布泥炭形成植物群落	大正11年10月12日	浜中町霧多布湿原	<ul style="list-style-type: none"> 霧多布湿原は31.680平方キロメートルにまたがる沿岸低地で、その中心部の8.03平方キロメートルが「泥炭形成植物群落」として1922年から天然記念物に指定されています。ここは、ミズゴケ、スギゴケ、シッポウゴケ等の丘塊が多く見られます。丘塊のやや乾いた上部に、ツルコケモモ、モウセンゴケ、ガンコウラン、ヤチヤナギ、イソツツジ、ワタスゲが生え、丘塊と丘塊の湿った凹部にムジナスゲやサギスゲ、ミカヅキグサが生育しています。イネ科の代表として、ヨシやチシマガリヤスが混生し、沼の周縁部等に低いハンノキ林が点在しています。 霧多布湿原は自然度が高く、美しい景観で、植物とともに多くの生き物にとってかけがえのない生息場所、自然環境の研究の場としても貴重な存在です。 この湿原は、泥炭層の厚さが所によって2.6メートルまであり、形成過程の中で何度も海水の影響を受け、泥炭に砂の層が複数はさまれています。砂の層に加えて火山灰も混じっており、地層が複雑です。自然保護上又は学術上価値の高いもので、天然記念物、鳥獣保護区、ラムサール条約登録湿地などとして保護されています。また、自然公園法で第1種と区別地域に指定されているため立ち入りについては制限されています。 湿原のなかに、ツボを逆さに置いたような形の「ヤチボウズ」と呼ばれる不思議なものがあります。霧多布湿原センター下の木道で見られます。 	JR茶内駅から車で10分 釧路より車で90分、厚岸より車で30分	浜中町教育委員会 0153-62-2111 霧多布湿原センター 0153-65-2779	立ち入り制限があります。			
NT18	釧路	弟子屈町	国	天然記念物	和琴ミンミンゼミ発生地	昭和26年6月9日	弟子屈町字屈斜路(和琴半島)	<ul style="list-style-type: none"> ミンミンゼミは南方系のセミの一種で、北海道では渡島半島から定山溪あたりまでわずかと、この和琴半島に棲んでいるのみです。 和琴半島は屈斜路湖にあり、ところどころ温泉の湧出口と噴気孔がある阿寒国立公園内の景勝地帯です。 このミンミンゼミは、8月から9月の間に出現し、体長35～37ミリメートル、体は黒色に緑色の斑紋があり、翅は透明で、やや褐色を帯びているものもあります。体色が本州のもの比べて黒味が強いのが特徴です。 なぜこの付近にだけ多く棲んでいるのでしょうか。かつては北海道各地にも広く分布していましたが、気温が低下し、分布区域が縮小したにもかかわらず、温泉湧出口や噴気孔による気温の比較的高い和琴半島に取り残されたともいわれています。 日本でもっとも北に棲んでいるミンミンゼミで、北海道における過去の気候変動状態を知る貴重な資料です。 	JR摩周駅から徒歩7分 バス停摩周温泉からバスで25分	弟子屈町教育委員会 015-482-2340	和琴半島には遊歩道があります。	北海道教育委員会1969『北海道の文化財』		



国指定史跡 釧路市 モシリヤ砦跡



国指定史跡 釧路市 春採台地竪穴群



国指定史跡 釧路市 鶴ヶ岱チャランケ砦跡



国指定天然記念物 釧路市 春採湖のヒブナ生息地



国指定史跡 釧路市 東釧路貝塚



国指定史跡 釧路市 北斗遺跡



国指定特別天然記念物 釧路市 阿寒湖のマリモ



道指定有形文化財
釧路市 円空作仏像薬師像



国指定特別天然記念物 釧路市 釧路湿原



国指定重要文化財 厚岸町 正行寺本堂



国指定重要文化財 厚岸町 蝦夷三官寺国泰寺関係資料



国指定重要文化財 厚岸町 正行寺本堂



国指定天然記念物 厚岸町 大黒島海鳥繁殖地



道指定有形文化財 厚岸町 太田屯田兵屋



道指定史跡 厚岸町 厚岸神岩砦跡跡及び竪穴群



道指定天然記念物 厚岸町 厚岸床潭沼の緋鮒生息地



国指定天然記念物 浜中町 霧多布泥炭形成植物群落



国指定天然記念物
弟子屈町 和琴ミンミンゼミ発生地

|